

2020年4月30日
株式会社リクルートキャリア

2020年1-3月期 転職時の賃金変動状況

「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者数の割合」29.4%

前年同期比0.9ポイント低下

株式会社リクルートキャリア（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：佐藤 学）が提供する転職支援サービス『リクルートエージェント』における2020年1-3月期の「転職時の賃金変動状況」を報告します。「転職時の賃金変動状況」では、“転職決定者の賃金は転職前後でどのように変化しているのか”という点に着目し、「前職と比べ賃金が明確に（1割以上）増加した転職決定者数の割合」の経年変化を観察していきます。

【算出式】

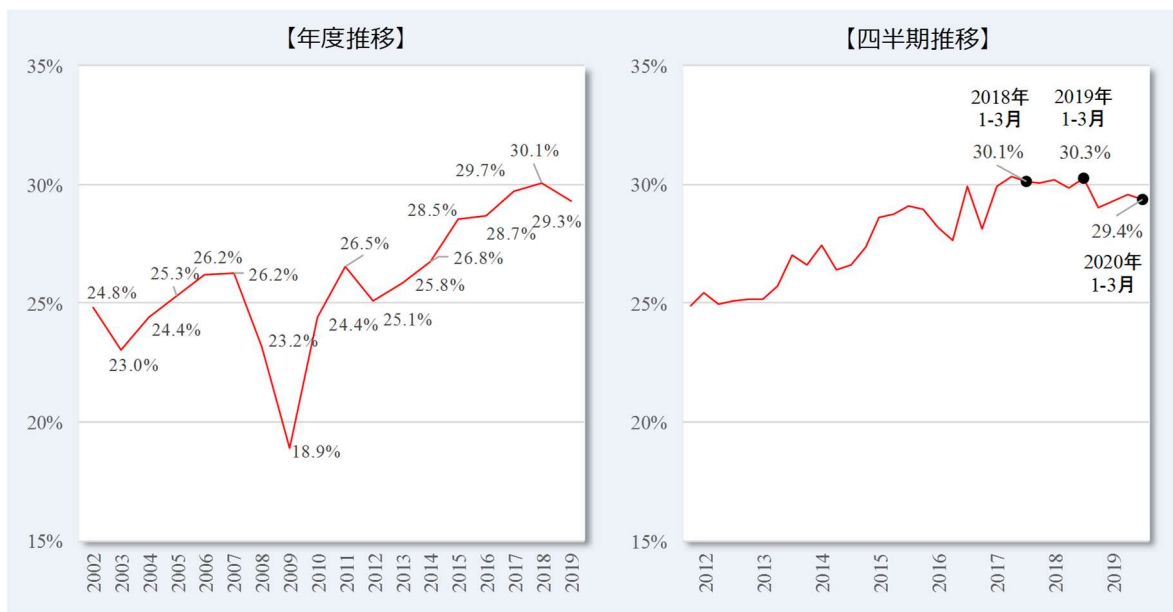
$$\frac{\text{「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者数」}}{\text{「転職決定者数合計」}} \times 100 \text{（単位：％）}$$

※ 前職（転職前）の賃金は時間外労働等の「変動する割増賃金」を含む一方、転職後の賃金にはそれらが含まれないため「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は実態よりも低めの値となる傾向があります。

■全体

1-3月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は29.4%。

2013年度以降、上昇基調が続いていたが、足許では幾分減速感がみられており、2020年1-3月期は前年同期比0.9ポイント低下と前年を下回った。年度単位の集計をみると、2019年度は2013年以降初の前年割れとなっている。

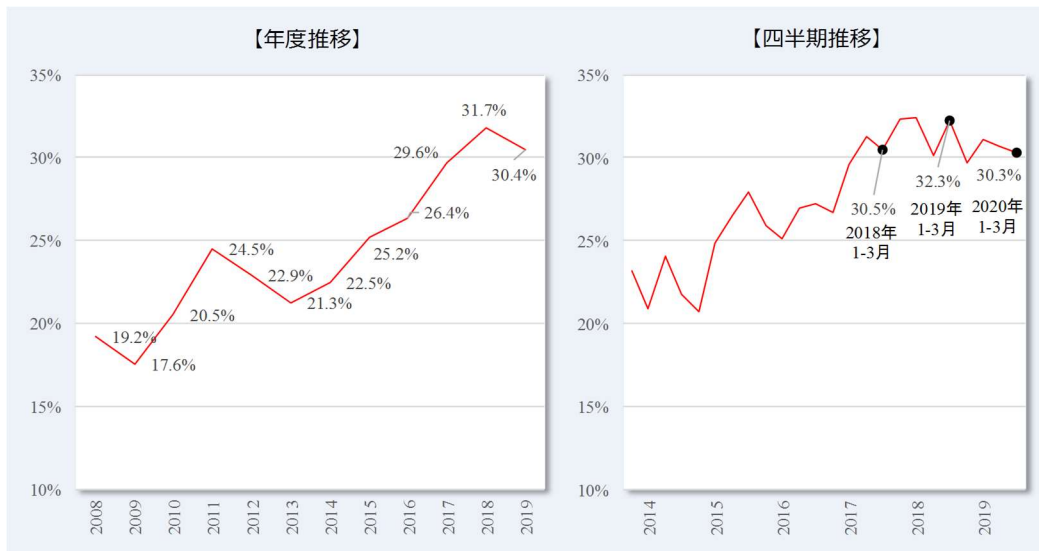


■職種別

IT系エンジニア：

1-3月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は30.3%。

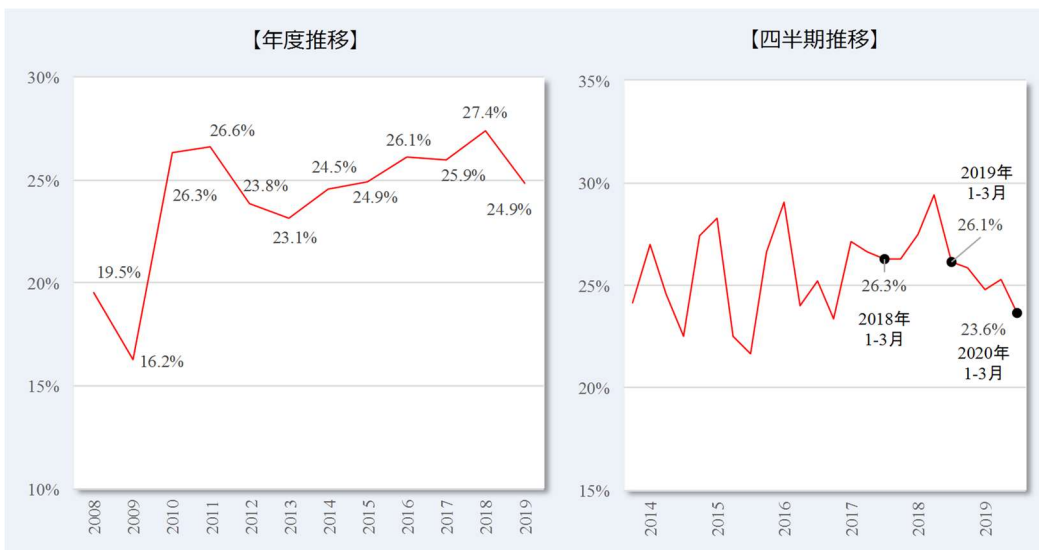
2014年以降、上昇基調が続いていたが、足許では幾分減速感がみられており、2020年1-3月期は前年同期比2.0ポイント低下と前年を下回った。年度単位の集計をみると、2019年度は2014年以降初の前年割れとなっている。



機械・電気・化学エンジニア：

1-3月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は23.6%。

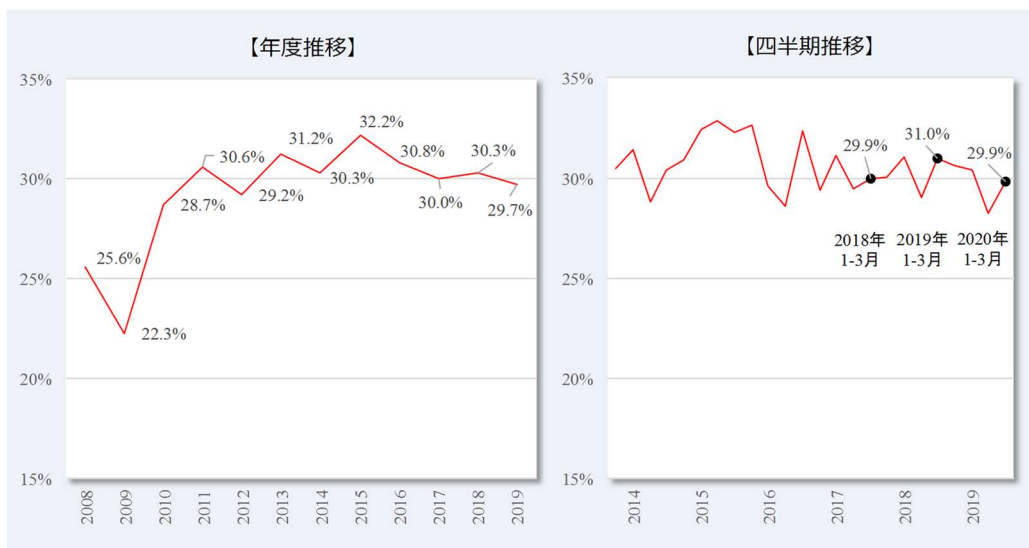
2014年以降、振れを伴いつつも上昇基調が続いていたが、2019年入り後は動きが鈍く、2020年1-3月期も前年同期比2.5ポイント低下と前年を下回った。年度単位の集計をみると、2019年度はこれまでの基調から乖離するかたちで大きく水準を下げている。



営業職：

1-3月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は29.9%。

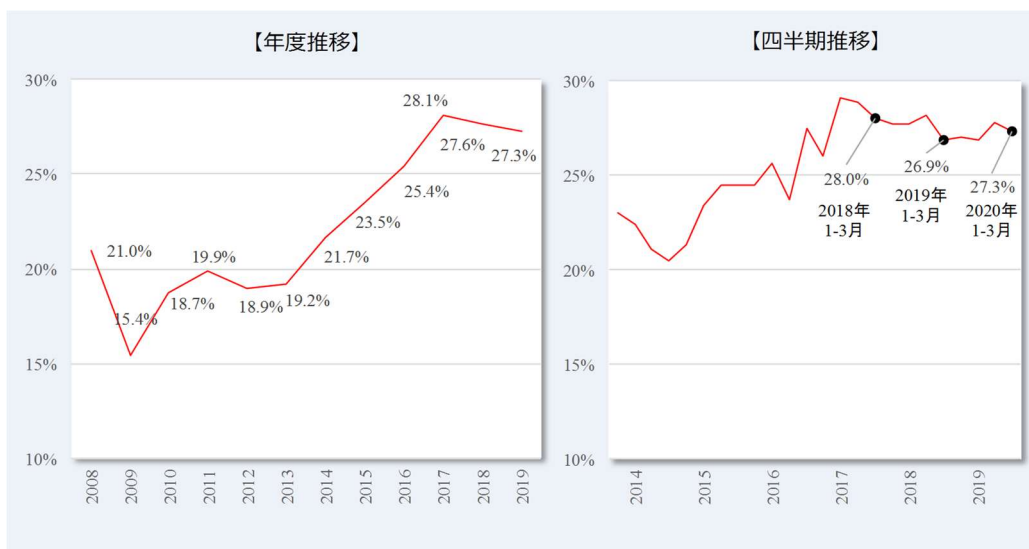
このところ、振れを伴いつつも横這い圏内での動きが続いているなか、2020年1-3月期は前年同期比1.1ポイント低下と幾分減速感も窺われている。年度単位の集計においても、2019年度は僅かながら水準を下げた格好。



事務系専門職：

1-3月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は27.3%。

2017年以降、幾分弱めの動きが続いている。年度単位の集計をみると、2019年度は前年度に続き水準を下げ、2017年度をピークとした低下基調が明確化した。一方、2020年1-3月期は前年同期比0.4ポイント上昇と、足許では僅かではあるものの水準を戻した格好。



接客・販売・店長・コールセンター：

1-3月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は36.8%。

2017年度は一度踊り場を迎えたものの、2018年度以降、緩やかな上昇基調に復している。2020年1-3月期も前年同期比0.1ポイント上昇と、僅かではあるものの緩やかな上昇基調が続いている。



本件に関する
お問い合わせ先

株式会社リクルートキャリア 広報部 社外広報グループ
TEL：03-3211-7117 MAIL：kouho@waku-2.com